

園長だより

入園、進級からほぼ3週間がたちます。ここ数日は暖かい日が続きました。日曜日には30度近い気温が記録されました。この暑さに適応するのは大人も子どもも大変な事、朝夕の寒暖差も加えると体調の維持には気を使わなくてはなりません。新入園の子ども達は新しい環境での生活に加え、様々な変化の対応があります。気象条件もそのひとつです。

しばらくの期間、週末はのんびりと過ごすことをおすすめします。

暖かくなると 水遊びから

温かくなると例年、5月連休前後から遊びの中で水に出逢い、水を使う場面が出てきます。おままごと、砂場でのダムや水路(川)づくり等子ども達の遊びの中で水の存在は不可欠です。

数年前の夏の事です。当時1歳児(現在4歳)の子ども達数名が水遊びをしている場面を思い出します。時期的にはプールが始まっている頃の出来事です。

太郎君(仮名)がプールの水の排水時にできた水路(乾いた状態です)を道にみたと、いたり、きたり歩いています。まるで水が流れているようにいたり、きたり、すると、その行動に興味を示した一郎君 次郎君(仮名)太郎君と同じようにいたり、きたり、歩いています。



しばらくしてプールの水が少しずつ排水されました。

水たまりにはなっていません。

ぬかるみの感触を楽しんでいます。

本来ここでは つい 汚れるからやめなさいと静止してしまうものです。

事の進みを観察すると3人にもうひとり加わりました三郎君です。三郎君は靴の底につく泥の感触、靴についたり、はなれたりする時の音を感じ「ぺちゃ、ぺちゃ」と言いながら歩き、みんなも一緒に「ぺちゃ、ぺちゃ」と大合唱、よほど気持ちよく歩けたのでしよう。その行動はしばらく続きました。時よりぬかるみに足を取られて尻もちをついたり、

歩幅を短くとれば、スムーズに歩けることを知ったり。手を広げてバランスを取ることで転ばないことを知ったり、何気ない遊びから発見の連続でした。

そして「ひとりよりふたり、ふたりよりさんにん、みんなで遊ぶって楽しいよ」と身をもって体験した場面でした

子ども達の探求心は更に膨らみ



とうとう、プール脇の水たまりに、最初はおそる、おそる水面を手のひらでたたく程度でしたがしばらくすると「ぺちゃ、ぺちゃ」「ばちゃ ばちゃ」とまさに いいこと見つけよと言わんばかりに 水たまりと仲良しに、その後 そーっと そーっと中に入りました。1歩、2歩、3歩と

ここでも大人だったら「何しているの びしょびしょでしょ」「靴までぬらして」と強制終了の場面ではないでしょうか

でもここは保育園、子ども達の発見や自分探しにはとことん付き合います。

水面をたたき、水の感触、水たまりのでき(場の構成)を知り、そーっと そーっと 中に入ることで目視できない水の深さを身を

(2018.4.26)

もって確認、「水深 くるぶし 異常なし」とわかった時点で次の友達が中に入るといっわけです。

さながら探検隊のようです。

最後はみんなで水たまりに入り、飛んだり跳ねたり、充実した遊びになりました。

1歳半から2歳頃はまさに自分探し自分の世界がいきなりに広がりを見せるころとされています。なんでも初体験、その体験が以降の生活、行動の源になっていきます。

保育園では寄り添い、共感してくれる大人の存在があります。前記の場面ではあれしろ、これしろと大人の思いや雑念はいっさい入らぬよう、そばで見守る。タイミングを見計らいシンプルな言葉がけで子ども達の思いを言葉に起こし、共感します。

子ども達の行動や表現から子ども達の思いや学びを「知る、知りたい」と思う気持ちが大切です。日常の一コマ、一瞬から子ども達の行動を読み取り、育ちをみつめるあたたかいまなざしを持ちつづけていきたいものです。

当然、その後、子ども達は水たまりをみると喜んで入るようになりました。(一時ですが)ただ、遊び方はその都度、変化していきます。

数年が過ぎ、遊びの場面では目的を持ち、程良く水を使っている子ども達、子ども達の好奇心に寄り添い、やれること、やってみたいと思うことをできるだけ実現させてあげたいものです。

(園長 廣部信隆 16)